

2番作野幸憲議員、登壇願います。

作野議員の質問時間は11時39分までです。

〔2番 作野幸憲君 登壇〕

○2番（作野幸憲君） おはようございます。議席番号2番作野幸憲でございます。議長に許可をいただきましたので、一般質問をさせていただきます。よろしく願いいたします。

さて、今回私が質問させていただくのは、これからの安来市の情報化についてとマンパワーの活用について、そして小・中学校の通学費補助についてでございます。

まず、これからの安来市の情報化について質問いたします。

この質問は、4つの項目に分けて質問させていただきます。

最初の項目は、庁内の情報一元化についての質問でございます。

年末年始の豪雪、9月の12号台風と、安来市の情報システムが問われる災害が発生いたしました。この2件の災害をとっても、安来市の情報がスムーズに適切に流されたかといえ、ほど遠いものだったと私は感じております。なぜこのような情報発信しかできなかったかという、私が考えますのに、安来市においては情報の一元化が確立されていないことが大きな要因だと思います。

大きな災害になると、それぞれ現場を預かる担当部局は現場に急行します。現場ではいろいろな情報を得ることができますが、それを持ち帰って情報を発信するところまではなかなか手が回りません。それは理解できますが、災害時や緊急時においては一分一秒が生死を分けることがあります。現在の安来市の情報発信体制は、ホームページの情報発信においては各担当部局がそれぞれに発信しています。平時はこれでもいいかもしれませんが、災害時、緊急時ではこれでは対応できません。

そこで、情報の一元化を提案いたします。

私の考えでは、情報化が進んだ現在においては1カ所がまとめて情報を発信することがベストだと思います。ホームページ一つとっても、専門性のある職員が責任を持って発信しないと迅速かつ正確な情報が伝わらない可能性も出てくると思います。私は広報を担当している部署がそれに当たるのが一番だと考えます。広報紙との整合性なども考慮し、交流センターなどのホームページによる情報発信についても、個々のセンターに任せるのではなく安来市の地域情報として責任を持っていただきたいと思います。ちょうど来年3月、安来市のホームページのリニューアルが計画されています。この機会に、庁内の情報

化の一元化を確立していただきたいと思いますが、いかがお考えかお答えください。

次に、2番目の項目は、先ほどお話をさせていただいたリニューアルされる安来市ホームページについての質問です。

9月の定例会時にお聞きしましたところ、今回のリニューアルでは、鳥取県米子市出身で現在島根県に在住のまつもとゆきひろさんが開発されたプログラム言語Rubyを使つてのリニューアルと聞きました。世界に誇れる地元技術を導入されたことは非常に評価できることだと思います。

私は現在の安来市のホームページは決して見やすく親しみが持てるホームページとは言えないと思います。今回のリニューアルに当たり、もっと親しみやすいホームページにしていきたいと思います。とはいえ、行政のホームページですから、使いやすくそして規律あるものにしていただく必要はあると思います。

そこで提案です。現在全国の自治体においてはイメージキャラクターなどを上手に活用し、親しみやすい行政運営に当たっておられます。ゆるキャラブームもその一つと言えると思います。安来市においても、あらエッサ君を初め多くのキャラクターがいます。このキャラクターたちをもっともっと活用していただきたいと思います。例えば、あらエッサギャラリーなどというページを新たに設け、あらエッサファミリーやあらエッサ君の多分100を超えと思われるいろいろなバージョン、そして広報紙に掲載されている四こま漫画なども紹介し、子供からお年寄りまで楽しんでいただけるホームページにしていきたいと思います。

安来市のホームページは、いわゆる安来市の顔の一つです。多くの人にアクセスをしていただき、安来市を紹介することは、自治体にとってとても大切な広報活動になると思いますが、この提案についてはいかがお考えでしょうか、お答えください。

3番目の項目は、すぐにできるブロードバンドの活用についての質問です。

私は過去3回の一般質問においてブロードバンドの利活用について質問させていただきました。しかしながら、前向きなお答えはほとんどありませんでした。これは財政的に厳しく、そこまでお金が回らないとの理由と私は理解しております。

そこで、お金を多くかけなくても今回整備されたブロードバンド・インフラ整備事業を利活用できないかと思い、私なりに考えたことを3つ提案させていただきたいと思います。

まず1つ目は、フリースポットを初めとする公共施設の無線ネットワークの構築設置です。

皆さんは、フリースポットという言葉は余り聞きなれない言葉だと思いますので、まず説明させていただきます。ここで言うフリースポットとは、無料で使える公衆無線LANサービスの提供できる場所のことです。そうはいつてもまだまだわからないと思います。これは簡単に言うと、無線機能を使ってインターネットが無料で使える場所のことです。全国の公共的な場所では、空港や駅、高速道路のサービスエリアや道の駅、図書館などに多く設置されています。例えば、安来市内でこのフリースポットが設置されているところは、ことし4月にオープンした道の駅あらエッサです。この周辺に行くと、無線LAN機能のついているパソコンやWi-Fi接続ができる携帯電話やスマートフォン、ゲーム機などを持っていくと無料でインターネットにつなぐことができ、いろいろな情報を得ることができます。災害時や緊急時においては、携帯電話やスマートフォンから通常の接続でインターネットにつなぐことは回線が混雑し接続が難しくなることが想定されます。ましてや、今までの10倍から20倍のデータをやりとりするスマートフォンの登場によって、平時においてもパンク寸前と言われております。

そういう中でも、安来市の大容量のブロードバンドを利用すれば、多くの市民の皆さんが携帯端末から無料で情報を得ることができます。そして、この設置に最低限必要な機械、無線LANルータとケーブルを合わせての金額は1カ所1万円くらいで十分にできる手軽さがあります。せっかくブロードバンド環境が整ったわけですからこれを使わない手はありません。また、市役所庁舎のロビーや交流センター、図書館や駅、安来節演芸館やスポーツ施設など、人が多く集まる施設などに設置していただきたいと私は思っております。交流センターや図書館については、生涯学習や教育ツールとしての役割も大いに期待できます。また、設置することで施設の魅力も増大しますし、若い年齢層の方の利用促進にもつながると思います。

以上、説明させていただきましたが、このフリースポットの設置についていかがお考えでしょうか、お答えください。

2つ目は、新たな方式による屋外ラップ、いわゆる屋外スピーカーの設置についてです。

3月11日の東日本大震災や9月の台風12号被害の経験などから、ブロードバンド・インフラ整備事業の一つとして市内に23カ所設置された屋外ラップを、外でも声による情報が得られるということで多くの自治会やPTAなどから増設してほしいという要望を私は多く聞きました。しかしながら、今設置されている屋外ラップは設置に1台300万円ほどの経費がかかり、これをふやすことは財政的に難しい状況だと思います。行政告知端末は大多

数の家で設置されましたが、これは家の中にいなければ聞こえません。

そこで提案です。現在使われているONU、これは家の外などに設置してある白い箱のことですが、これと行政告知端末のスピーカー機能を使って安価でできる簡易屋外ラップを設置することはできないのでしょうか。技術的には可能だと思いますのでいかがでしょうか。当然、民間企業の協力を得て雨風がしのげるものが最低限必要となりますが、災害時、緊急時の安全・安心を考えると必ず必要になると思います。当然、この設置には国の補助は使えませんので、場合によってはある程度の負担は希望される自治会や集落、団体などをお願いすることになるとは思いますがいかがでしょうか、お考えをお答えください。

3つ目は、公共施設でのテレビの活用についてです。

どじょっこテレビが開局し、安来市や地域の情報が多く流れる環境は整いました。しかしながら、どじょっこテレビへの接続はいまだ三十数%不足です。接続をふやすためには、どじょっこテレビはこういうものだということを多くの市民の皆さんにわかっていただく必要があると思います。そのためには、交流センターを初めとするどじょっこテレビが映るテレビを有効活用していただきたいと思います。それは、いつでも市民の皆さんが見られるように考えていただくことです。また、多くの人が集まるスポーツ施設や公共施設でまだテレビが設置されていない場所にはどじょっこテレビが見られるテレビを設置する必要があると私は思いますが、いかがでしょうか。お考えをお答えください。

以上、申し上げましたように、お金をそう多くかけなくてもブロードバンドを利活用できる方法はまだまだあると思いますので、質問しましたことも含め前向きなお答えをよろしく願いいたします。

次に、4項目めの項目、情報化が進む学校教育について質問させていただきます。

国は2011年度から順次に全面実施となる新しい学習指導要領の中で情報化の推進をうたっています。これは、小学校では各教科書等の指導に当たっては、児童がコンピューターや情報通信ネットワークなどの情報手段になれ親しみ、コンピューターでの文字を入力するなどの基本的な操作や情報モラルを身につけ、適切に活用できるようにするための学習活動を充実することなどが中心となっています。また、中学校においても同じような方向性が打ち出されています。私は以前、市内の小学校を中心にITの講師として講習を行ってきました。IT、ITと言われていた時代は多くの講習が開催され、IT技術の向上が図られてきました。今はIT教育からまた一歩進み、ICT教育、情報コミュニケーション教育と今言われています。しかしながら、最近小学校の先生に教育現場でどれほど情報

化教育が進められていますかと尋ねると、ううんという返事が返ってまいりました。ことし発表された全国の公立学校情報化ランキングによりますと、自治体間の格差が拡大していることがわかります。安来市の小学校は、全国1,739自治体中937位、中学校では1,771自治体中842位という数字が出ています。島根県の自治体の順序も平均以下となっています。現在の情報化社会では、情報を適切に扱う力が必須です。これは、今や社会に出るための必須教科の一つとも言えると思います。そのためにも、義務教育時にいかに基本技術や情報モラルを身につけさせるかはとても重要です。

そこで、お尋ねいたします。

安来市では、情報化教育をどのように進めておられますか。また、電子黒板やデジタル教材の整備や教員の指導力向上に向けての方針、またスマートフォンが急速に普及する中、これらに対する情報モラルの徹底などについて教育委員会のお考えをお尋ねいたします。教育だけではなく、自治体間でも情報格差がどんどん広がっています。せっかく安来市はブロードバンド・インフラ整備事業によってインフラ整備がなされたわけですし、災害などによってブロードバンドに対する理解や期待も大きいわけですから、この時期に自治体として情報化におくれないよう積極的に取り組んでいただきたいと思います。

次に、2つ目の項目、マンパワーの活用について質問いたします。私は、幾ら情報化が進んでも、マンパワーにまさるとは思っておりません。

そこで、今回マンパワーを使った2つの提案をさせていただきたいと思います。

1つ目は、行政と市民でつくる買い物支援についてです。

これは保健師さんの日ごろの活動を活用させていただき、そこからの情報を高齢者で元気に活動しておられる方々、具体的にはシルバー人材センターの方などに伝え、御用聞き的な働きをしていただき、買い物に困っておられる方々の支援をしていただくという考えです。これは、ことし10月のニュースで宮城県石巻市が震災の対策の一環として、また新しい医療の形として、65歳以上の方々の家を回っておられる保健師さんに健康だけではなく家屋の修理や食料に困っていないかどうかを聞いてもらい、そのデータを地元の商店などに伝え、買い物支援などをしておられることを知ったからです。これをするには、多分個人情報などをどう扱うかなどいろいろクリアしなければならないことがあると思いますが、実際に行われている事例ですので、やり方によっては安来市でもできるのだと私は思います。また、幸いに安来市シルバー人材センターの皆さんは市内南部の地域で既にそのような活動をしておられ、今後もこの活動に積極的な方針を打ち出しておられます。以前

はブロードバンドを使った買い物支援を提案しましたが、これができれば行政と市民、特に元気な高齢者の皆さんが、自分の地元の高齢者さんに買い物支援をすることができるようになるのではないかと私は思います。また、地元の商店で配達は難しい皆さん方も、配達部分を任せられれば一石二鳥だと思います。大手コンビニチェーン各社でも、高齢者の買い物難民対策に移動販売車の導入や高齢者向けのコンビニの開店などいろいろな事業が展開され始めています。市としても、民間の動向も注視し、市民と協力して買い物支援を進めていく仕組みを構築していただくことができないでしょうか。お考えをお答えください。

2つ目は、安来節保存会の会員の皆さんのパワーをお借りしての安来節演芸館の有効活用と宿泊型観光の推進です。

皆さん御存じのとおり、ことし安来節保存会は100周年を迎えられました。多くの先人の方々の努力と支えにより今日の安来節保存会ができたことは安来市民の誇りであり、この先ずっと受け継いでいかねばならないものだと思います。恥ずかしながら、私も議員になってから初めてお盆に開催される安来節優勝大会に伺うようになりました。ここに行くと、全国から集まってこられる会員の皆さんのパワーを感じずにはられません。私は以前より四千数百人とも言われている会員の皆さんと安来節演芸館や安来市内の観光施設を結びつけることができないかと考えていました。最近ある方と出会い、その中で一つのヒントをいただきました。それは、安来の宿泊施設に泊まっていただき、安来節演芸館のホールを利用し、家元が中心となって直接会員の指導をする。指導終了の際には、家元直筆のサインと一緒に並んで写した写真をつけた修了証書を渡していただく安来節と観光をセットにした企画です。このような企画ができれば安来節の伝承にも大きな役割を果たせまし、演芸館の利用促進と観光振興にも大きな意味があると思います。100年たっても安来節が実現できるよう、安来節保存会と安来市が連携を深め、将来を見据えた制作を実行してかなければならない時期に私は来ていると思いますがいかがお考えでしょうか。お考えをお答えください。

最後の質問は、小・中学校の通学費補助についてお尋ねいたします。

この件については、ことし6月の定例会で質問させていただきました。そのとき教育長は、交付要綱が今年度末でその効力を失いますので、今後検討をしてできるだけ早くその方向性を出したいとお答えをいただきました。期限が迫る中、検討はどこまで進んでいるかお尋ねしたいと思います。

以上、多くの提案並びに質問をさせていただきましたが、前向きな御検討を、御答弁をよろしくお願いいたします。

以上で私の壇上からの質問とさせていただきます。

御清聴ありがとうございました。

○議長（遠藤 孝君） 伊達山教育長。

〔教育長 伊達山興嗣君 登壇〕

○教育長（伊達山興嗣君） 作野議員からの御質問のうち、教育に関することにつきまして私より御答弁したいと思います。

情報化が進む学校教育、中でも安来市では情報化教育をどのように進めているのか、また電子黒板等の設備や教員の指導力向上についてはどのようになっているかということにつきまして、初めにお答えをいたします。

情報化教育を進めていくためには、教職員の資質の向上と設備や機器の整備の両面が必要だと考えております。教職員の資質向上という面につきましては、安来市の教育研究会でのメディア部会が中心となって行っておる研修会や島根県教育委員会が主催しております研修会に参加しております。設備機器の整備という面につきましては、平成21年度にすべての小・中学校に電子黒板を整備いたしました。その活用をさらに促進してまいりたいと考えております。

次に、情報モラルの徹底につきましては、私は情報モラルとは情報社会で適正な活動を行うためのもととなる考え方や態度を情報モラルを思っております。日常の生活の中で情報を利用するときも他者への影響を考え、人権や知的財産権などの権利を尊重し、責任を持って正しく安全に利用することが重要でないかと、このように考えております。情報モラルの徹底につきましては、児童・生徒への教育や教職員の研修を各学校で実施しております。中には、外部講師を招いたものや保護者を対象としたものもございます。また、生徒指導の観点からも研修を進めております。子供たちがこれからの情報化時代を生きていくために必要な知識、技能を身につける、そして情報を安全に利用できるよう支援していくことが重要であろう、このように考えております。

もう一つ、御質問をいただいております。小・中学校の通学費補助につきまして。大変失礼いたしました。

現在安来市小・中学校通学費補助金交付要綱に基づいて市が通学費の補助を行っております。この安来市小・中学校通学費補助金交付要綱が今年度末でその効力を失いますが、

来年度につきましては補助金が切れますので、今年度までと同様のものを検討してまいりたいとこのように考えております。

○議長（遠藤 孝君） 伊藤市長室長。

〔市長室長 伊藤耕治君 登壇〕

○市長室長（伊藤耕治君） それでは、庁内の情報一元化ということについてお答えをさせていただきます。

本年度から情報の発信媒体が行政告知端末、それから安来どじょっこテレビの情報チャンネルとこれまでの広報紙、ホームページにあわせましてふえております。そして、その媒体の担当部署も秘書課、それから情報管理室、情報政策室というように複数の部署にまたがっておるところでございます。

議員御指摘のとおり、これらの情報媒体を利活用するためには、それぞれの媒体で専門的な知識も情報も必要になってまいります。そうした専門性が求められる媒体で情報を適宜速やかに提供するための組織や体制のあり方もまた求められているところであると考えております。特に、災害時あるいは緊急時には、情報を正確に速やかに伝えていくということが不可欠になってまいります。現在ホームページをリニューアルするための検討委員会を設置しております。その中で、一元的な情報管理も含めまして災害時、緊急時等の情報提供のあり方について協議をいたしているというところでございます。

それから、リニューアルされる市のホームページにつきましてお答えをさせていただきますと、ホームページにあらエッサ君を活用した内容にということでございます。先ほど話しましたホームページの検討委員会の中であらエッサ君を登場させた素案づくりに現在着手をいたしているところでございます。御提案の趣旨を取り入れ、生かしながら構成を考えていきたいというふうに考えております。更新する新しいホームページは、市民本位で見やすく親しみやすく簡潔なデザインの画面構成にし、アクセスされた方が知りたい、得たい情報が早く入手できるようなものにしたいと考えております。

以上、答弁とさせていただきます。よろしく願いいたします。

○議長（遠藤 孝君） 児玉総務部次長。

〔総務部次長 児玉好之君 登壇〕

○総務部次長（児玉好之君） 作野議員のこれからの安来市の情報化のうち、3番目の項目に上がっておりますすぐにできるブロードバンドの活用につきまして、3点御質問があったと思っております。

まず1つ目のフリースポットの設置につきましては、市のブロードバンド環境を生かした住民サービスの向上という観点から有意義であると考えております。御指摘のとおり災害時はもちろん、多方面におきまして情報を取得する手段の一つとして活用できるものと考えております。フリースポットの設置につきましては関係課、これは施設の所管課を含みますけれども、協議しながら検討してまいりたいと考えております。

それから、2つ目の屋外ラッパにつきましては、この屋外ラッパの設置につきましてはあくまでも各戸の告知端末を補完するために設置したものでございます。屋外スピーカーで市内全域をカバーしようとしたしますと、何百基という数の設置が必要になり現実的には非常に難しいと言わざるを得ません。しかしながら、議員御提案のありました簡易な方法での屋外スピーカーの設置ということでございますが、屋外スピーカーとしての機能、これは音声の到達距離を含みますけれども、それが発揮できるという条件で技術的に可能かどうかということも含めて検討をしてまいりたいと考えております。

それから、3つ目の公共施設でのテレビの活用ということでございますが、どじょっこテレビにおきましては現時点、当初予定しておりました加入状況より低い状況ではございます。今後、さらに加入促進が必要と考えております。そのためにも、公共施設等で積極的にどじょっこテレビを見ていただく環境をつくり、PRすることも当然必要であると考えております。そのため、各公共施設を所管する担当課に対しましてどじょっこテレビの加入とテレビの設置、並びに市民の方々に見ていただけるような運用を行っていただくことを促していきたいと考えております。

以上、答弁とさせていただきます。

○議長（遠藤 孝君） 内田産業振興部次長。

〔産業振興部次長 内田修次君 登壇〕

○産業振興部次長（内田修次君） 私のほうからは、マンパワーの活用ということで2点についてお答えをさせていただきます。

まず1点目は、行政と市民でつくる買い物支援についてであります。

現在、中山間地域商業対策としまして移動販売、宅配サービス等に係る車両取得費等への補助、また無店舗地区等への店舗の設置につきまして補助制度を設けております。今後、より高齢化社会になることが予想され、買い物弱者もふえていくものと思います。

そうした中で、NPO法人、社会福祉協議会、シルバー人材センターなどと連携した対策が重要になると思います。そして、配送システムの構築や助成制度、またブロードバン

ドの活用やモデル地区を通した検証などをさまざまな角度から検討をしていく必要があると考えております。

さらに、望ましい姿としまして、自分たちの地域は自分たちで守るという考えのもとで、自治会組織等で有償ボランティアにより買い物弱者を支援する活動をしていただくことによつて当たり前の活動として継続することにもつながるのではないかというふうに考えております。

次に、2点目でございますが、安来節保存会会員のパワーについてであります。

現在安来節保存会は全国で68支部、会員数は4,100名であります。単独の地方民謡団体の中では日本有数の組織であります。本年度で創立100周年という記念すべき年を迎え、会員の皆さんも張り切って活動をしておられるところでございます。

市の安来節振興策としまして交流センターでの安来節教室の開催、学校等へ保存会会員の講師派遣を行う事業や安来節保存会の事業に対する補助などを行っております。また、家元には年間を通じて安来節の公演はもとより、講話や教室を通じまして安来節の普及振興を精力的にさせていただいております。御提案のありましたように、全国の安来節保存会会員の方に本場の安来市に来ていただきまして、演芸館において家元からじきじきに指導をしてもらうというような効果は、安来節の振興はもとより観光振興にもつながることだというふうに思っております。現在実施に向けて検討しているところでございます。

以上、答弁とさせていただきます。

○議長（遠藤 孝君） 作野議員。

○2番（作野幸憲君） 今回いろいろたくさんの提案をさせていただきました。その中でも、フリースポットの設置や公共施設でのテレビの活用、また安来節保存会の会員のパワーの活用など、非常に前向きな、これから進めていただけるんだなという御答弁をいただいて、私非常にありがたく思いました。

今回こうやっているいろいろな提案をさせていただきましたが、こういう情報化の時代になっても、また人のパワーというものは何物にもかえがたい、やっぱり市民の宝でございますので、この辺も市として積極的に活用をしていただけるような方策を市役所の中からどんどんどんどん出していきたいというのが私の願いでございます。そして、ブロードバンドも考えればまだまだいろいろな方策はお金をかけなくてもできることだと思っております。ここのあたりも、こういうことを市役所の中から吸い上げるような仕組みはあるんですが、それが活用をどの程度されているかという、これについてもちょっと首をか

しげざるを得ないところがございます。

1点だけ再質問をさせていただきたいと思います。

先ほど教育長のほうから通学費補助については来年、今までと同様のことを検討していきたいということでございましたが、これについて同様という意味合いは、今まで補助していたやり方はそのまましていく、そしていろいろな仕組みが市内の通学補助にはありましたが、現行をそのまま来年については考えて検討するというところでよろしいのでしょうか。再質問をさせていただきます。

○議長（遠藤 孝君） 伊達山教育長。

○教育長（伊達山興嗣君） 先ほどの私の答弁で幾らか御理解が得られなかった言葉を言ったかと思いますが、補助金が切れるということがまず前提にございまして、今年度と同様なやり方が、補助が継続できるかどうか今検討に入っております、とさせていただきます。

○議長（遠藤 孝君） 作野議員。

○2番（作野幸憲君） わかったようでわからないような答弁でございましたが、それについては市長から今発言がある旨あるようですので、後でお聞きしたいと思いますが。

それとは話は違いますが、ちょうどきのうの新聞で島根県の19の市町村が自治体クラウドについて共同運用をするというような話が出ております。これについても経費の削減等について非常に有効な手段だと思いますので、情報化の一環として私が前から言っておりますようにそれについても積極的に推進していただくように、これについては要望とさせていただきます。先ほどの件について市長より答弁があればお願いして、私の質問とさせていただきます。

○議長（遠藤 孝君） 近藤市長。

○市長（近藤宏樹君） そのクラウドも、ぜひともそういう積極的に我々も参加していきたい、こういうふうに思っております。

また、ブロードバンドの活用も、職員を全国へ派遣してさらなる利活用を今研究しております。

そして、通学費は同様などというような、前向きに、財政も含めて今予算編成のまだこれからですので考えております。よろしくお願いたします。

○議長（遠藤 孝君） よろしいですか。

（2番作野幸憲君「終わります」と呼ぶ）

以上で2番作野議員の質問を終わります。

